

# 龍田古道

万葉歌を歩く

神降りの風道

## 龍田古道とは

龍田古道は飛鳥時代以降、河内(大阪)と大和(奈良)を結ぶ山越えの道として利用されてきた歴史街道であり、推古天皇により置かれたわが国最初の官道とも言われています。

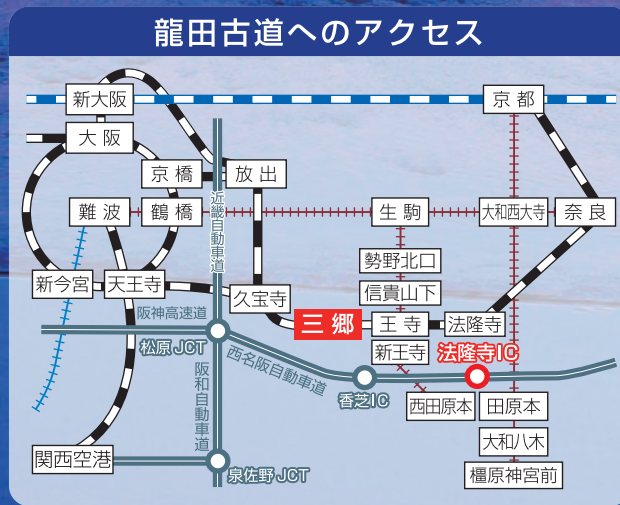
古代大阪湾の港・難波津から四天王寺を經由し、斑鳩の里・法隆寺までを結ぶルート沿いには、道の整備に関わったとされる聖徳太子ゆかりの寺院が建ち並んでいました。壬申の乱の舞台となったほか、天皇や官人、遣唐使・遣隋使も往来したこの道。シルクロードの終着点とも言われる奈良の都・平城京へと大陸文化を運ぶ際にも重要な役割を果たしました。

龍田古道が通る市町村の中で奈良県最西部に位置する三郷町は、都人が西国へと向かう時に、見送りの家族と別れた送迎の地でもあります。「龍田大社」には龍田山山上に降臨された風神様が祀られており、旅人は皆ここで、遠路となる旅の安全を祈願しました。

龍田山から町へと延びる「神降りの風道」は今も、いにしえ人が歩いた自然風景を色濃く残しています。現代の町並みに姿を変え風の郷を横切る街道にも同じだけ神々の清々しい気が溢れています。

古代へと思いを馳せ、豊かな心で清い気を感じて古道をお楽しみいただくために、おすすめする散策コースを地図にまとめました。

### 風の郷 龍田古道プロジェクト



### 協働によるマップづくり

奈良県では、地域資源を再発見するため、様々な地域でマップづくりを行っています。平成30年度は「風の郷 龍田古道プロジェクト」と「なら・まちづくりコンシェルジュ(事務局:奈良県地域デザイン推進課)」が協働でこのマップを作成しました。

平成31年(2019年)3月発行

問合せ先:  
風の郷 龍田古道プロジェクト(TEL 0745-72-7462 三郷町商工会内)  
三郷町ものづくり振興課(TEL 0745-43-7343)  
奈良県地域デザイン推進課(TEL 0742-27-5433)

協力: 三郷町教育委員会

まちづくりマップ

## 龍田古道の位置



## 万葉歌を歩く

三郷町を舞台に詠まれた万葉歌は約30首。桜と紅葉の名所である三室山や龍田山、麓を流れる龍田川などの美しい風景を題材に、愛しい人と故郷への想いを込めた多くの和歌が残されています。万葉歌人の息吹に触れ、古代の記憶を辿りながら龍田路を散策しませんか?

**龍田山見つつ越え来し 櫻花**  
散りか過ぎなむ 我が帰るとに  
龍田山で見ながら越えて来た桜の花は、私が帰るまでにはすっかり散つてしまっているだろうなあ。

**神奈備の伊波瀬の杜の喚子鳥**  
いたくな鳴きそ 吾が恋まさる  
神奈備の伊波瀬の杜の喚子鳥よ、あまりひどく鳴かないでくれ。そんなに鳴いては、私があの方を恋しく思う心が増すばかりだから。

**吾が行は七日は過ぎじ 龍田彦**  
ゆめこの花を 風にな散らし  
私の旅は七日は越えることはいよいよ。龍田彦の神様よ、決してこの花を風に散らさないで下さい。

## 近世に描かれた龍田本宮(現 龍田大社)周辺古地図



風の郷にロマンを感じて

# 龍田古道

おすすめコース

## ご飲食・お土産

<b>A</b> キャロット(カフェ)	<b>H</b> 四季屋(寿司)
<b>B</b> かめ八(そば・うどん)	<b>I</b> いしだ(お好み焼き)
<b>C</b> やまもと(ケーキ販売)	<b>J</b> Gallery Kawari(金属工芸販売)
<b>D</b> A-COOP 三郷店(スーパーマーケット)	<b>K</b> むぎっ子(パン販売・カフェ)
<b>E</b> シーフード智栄(レストラン)	<b>L</b> カフェ アヴェール(カフェ)
<b>F</b> おかず村(弁当販売)	<b>M</b> 四ッ葉のクローバー(カフェ)
<b>G</b> カフェ ファンチャーナ/ DESIGN SETTA SANGO (カフェ/ 雪駄販売)	<b>N</b> ポンシック(ケーキ販売・カフェ)

### アイコン案内

龍田古道案内看板  
設置場所  
龍田古道  
三室山

### その他アイコン

**P** パーキング  
トイレ  
歌碑  
おすすめコース

ここで詠まれた歌  
神名火の磐瀬の杜で鳴いているほととぎすよ、私のいる毛無しの岳にはいつになれば来て鳴いてくれるのだろうか。  
神名火の磐瀬の杜で鳴いているほととぎすよ、私のいる毛無しの岳にはいつになれば来て鳴いてくれるのだろうか。  
神名火の磐瀬の杜で鳴いているほととぎすよ、私のいる毛無しの岳にはいつになれば来て鳴いてくれるのだろうか。



## おすすめの見どころ

**1 三室山(展望台)**  
龍田大社の重要地である御座峰(こざがみね)へと向かう立地にあり、現在は入口付近に大伴家持の万葉歌碑が、中腹に遊歩道や展望台が整備されている。龍田古道には川沿いのほかに三室山を越えるルートもあったとされ、今も当時の偲ばせる山の自然風景を目にすることができる。

**2 三室山古墳**  
三室山に四基ある古墳の中で二号墳・三号墳は「双室双室墳」として注目されている。同一規模の二つの方墳が並ぶものを「双墳」と呼ぶが、こちらはさらに一つの古墳に二つの石室が存在する「双室墳」。非常に珍しく飛鳥・奈良時代の古墳研究においても貴重である。7世紀前半に造られた。

**3 関の地蔵**  
天武天皇の時代の四大関所の一つ、龍田の関跡。往時は現在地より西側の太田川北岸にあったとも言われるが、度重なる川の氾濫で石の地蔵尊がお堂ごと流されるなどし、のちに今の場所に祀られた。

**4 いわせ 磐瀬の杜**  
龍田大社の飛地。元々は大和川河畔にあったが、支流である関屋川の改修工事に伴い現在地に移された。毎年4月3日には、大和川(旧龍田川)で新鮮な鯉を採り磐瀬の杜の水神に供える神事「瀧祭」が行われる。

**5 かなび 神奈備神社**  
龍田大社の末社。神奈備とは「神がおられる場所」という意味で各地に存在し、表記も神名備・神南備・神名火・甘南備と多種にわたるが意味はどれも同じ。万葉集にもこの神奈備を舞台に10首以上の歌が詠まれている。

**6 安村坂**  
立野地域一帯を広く支配していた安村家の屋敷のあたり、龍田大社前の馬場からJR三郷駅に向かって続く坂道をこう呼ぶ。安村家は中世に栄えた立野氏を引き継ぐ形で龍田大社を管理し、17世紀には魚梁船(やなぶね)で大和川水運を支配するなど大きな力を持っていた。

**9 龍田大社**  
「風の神様」として知られ、法隆寺建立の際には聖徳太子が日参するなど、古来より厚い信仰を集めてきた。旧社格では官幣大社に位置付けられ、日本書紀では崇神天皇の御代に凶作・疫病が流行する中、天皇が夢のお告げによりこの宮を造営したところ、世の中に平穏が戻ったとされている。春は桜、秋は紅葉が彩る静かな境内。「風の神様の清々しい気が四方八方に行きわたる様に」との祈りを込められた八重の楓(8枚葉の楓)がご神紋となっている。

**7 おか 毛無しの岳**  
坂根から信貴山に上る坂道一帯ではないかとされている。草木の生えない不毛の地を意味する説があるが、現在は自然豊かな丘陵地であり、丘裾にもどかな田園地帯が広がって四季折々の表情を見せている。

**8 へいりゅうじ 平隆寺**  
聖徳太子創建の寺院の一つ。法隆寺とほぼ同時期の飛鳥時代に建立された。別名、施鹿園寺(せろくおんじ)・平群寺。この地の豪族平群氏の氏寺であり平群地域の中心地であった。